

夏季号

Y-MOT ネットワーク通信 Vol. 4

(山形大学大学院理工学研究科ものづくり技術経営学専攻)

『夢に向かって、限りなき挑戦！』

特別寄稿 NPO法人ライフマネジメントセンター理事長

佐藤 安太 (C20年卒)

私は経営者の体験と同時に、アメリカを始めとする海外ビジネス体験を有していますので、日本の工学教育の在り方について危機感を抱いていました。それは日本の工学教育は技術だけに偏り、人間教育が行われていないと感じ、何とか解決したいということでした。私は二世経営者のために経営塾を開いています。若い社長が幅広い教養を身につけ、真のリーダーシップを発揮する「人づくりに取り組み大きな成果を挙げています。

この人材育成の教育システムを工学部に導入したいという夢を抱いていましたが、その夢、願望が信じられない出会いと幸運によって、現実の教育プログラムとなって実現しそうです。

韓国海洋大学の金允海(キムユン)教授との出会いにより、相互の講義内容の良い点を採り入れ、一つの学問体系に纏め上げました。『未来設計と成功エンジニアリング』という名称で、幸い大好弘工学部長、高橋幸司教授のご支援を賜り、日本と韓国で共通テキストを用いて講義が始まります。

その間、「だっこちゃん」を始め「リカちゃん」「人生ゲーム」「チョコロQ」「トランスフォーマー」等々のヒット商品を作ってきました。そのため「おもちゃの王様」と呼ばれるとともに、東証一部上場企業づくりに成功しました。

この度、縁がありまして、平成十九年山形大学大学院理工学研究科博士後期課程ものづくり技術経営学専攻に入学させて頂き、本年三月二十一日に工学博士号を頂きました。



私は昭和二十年(1945年)に、現在の山形大学工学部(米沢高等専門学校工業化学科)を卒業しました。

昭和三十年に(株)タカラの前身である(株)佐藤ビニール工業所を設立し、平成十二年まで四十数年にわたり創業社長として経営に携わってきました。



(リカちゃん)



4月10日(土)、恒例の新歓コンパ・総会が開催されました。対象入学者は、昨年10月入学者4名、今年度4月入学者13名、博士コース3名の合計20名でした。ゲストの方2名、8名の先生、在校生・OBで約50名の参加により盛大に挙行されました。総会議案も無事に承認され、引き続き、M-4卒(博士コース入学)の五十嵐淳氏による「やまがた第6次産業人材創生プロジェクト事業」についての御講演を頂きました。

第二部の歓迎会も江口・遠藤(M-2)両氏の司会により、新入生・先生の自己紹介等、楽しい雰囲気の中で無事に終了致しました。

恒例 《新歓コンパ・総会開催》！

この学問は、MOTの技術としては一風変わった技術と言えましょう。「ものづくり技術」そのものではなく、「ものづくり技術」を生かすも殺すも、ものづくりに係る「人間そのもの」にあるという考えです。世の中にある技術や情報を活用し、自分の潜在能力を高め、社会で成功を目指す学問なのです。

ただ、成功したいと思っても、具体的手法が分からないのです。その意味で、この学問は成功するやり方をシステム的に学べます。

日韓の大学生が共通テキストで学び、『共有知』が出来ることにより、胸襟を開いた話し合いが可能になります。私は、ここから真の交流が始まることに大きな意義があると考えています。(完)

『私とMOT』 シリーズ編

MOT一期生 三宝化学工業(株)大垣工場 吉野 節巳



私は、もともと愛知県豊田市の出身で、MOTには珍しく(?)工学部の出身です。今のところ米沢まで通うMOT受講生の中で岐阜県の大垣からの私が、最も遠方ではないでしょうか。

遠距離ですので、結構負担がきつかった覚えがあります。交通費は、学割を使用して往復4万円かかり、修士の頃は、土日で年間25回くらいでしたから100万円くらい使いました。博士課程は、通う回数も少なく、学費補助もあつてかなり負担は減りました。いずれにせよ、学部生の頃と違い、親の援助などなく身銭を切つて通うわけです。講師の先生方には、失礼な話ですが「つまらなければ、辞める」と心密かに決めて通い始めたわけですが、しかし、いつの間にか、夢中のめり込んでしまいました。

私は、中小企業の化学工場に勤め20年を超え、課長にはなりましたが、役員に縁故もコネもなく、はつきりいつて負け組です。本来、化学工学出身の私は、化学工場に勤務したわけですから、専門を生かした就職です。

しかし、入社してみると足りないことばかりでした。化学系でありながら大学では苦手だった化学分析をやり直す必要があります。初めて品質管理を学び、熱管理、危険物、毒物劇物、公害から廃棄物の資格を取得し、適用法律を調べ、特許や英文文献の検索まで行いました。

理系の技術者の何でも屋のつもりで働かなければなりません。一応、バブルやバブルの崩壊も体験したので、MBA(経済修士)が、株や先物で、マネーゲームに固執するのを軽蔑していました。

正直、ものづくり技術経営学とかMOTなど、あまり真剣に考えていませんでした。もともと、マーケティングやマネジメントは、適当に当然の理屈を小難しくした英単語を並べた薄っぺらな学問と軽く見ていました。

実学としてMOTは、十分な手応えがありました。特に、現役で経済を動かしている講師、社長と直接話ができること。実学としての実践のスキルを学ぶ手応えに感動しました。また、机を並べる学生も、経営者から学部からの学生が幅広く混在しています。年齢的には中間層で、経営を先に実践している役員や、工場長には遅れを取り、最新のソフトやマシンを使いこなす柔軟な頭を保つ学部からの学生に挟まれ、その双方に影響を受ける環境でした。

博士課程も終わろうとしています。年齢ももうすぐ50を超えて、勉強ばかりもしていられません。足りない部分は走りながら、学びながら、実践を積み上げていくのが、私のMOTとしての活動と思っています。

Y-MOTネットワークとしても、足跡が残せるよう活動していきたいと思えます。

「コーヒーブレイクでこんにちは!!」

余 海霞さん (MOT 第五期生)

山形大学に入学し日本の物流についての学びを深め、キャリアアップを目指されているすてきな女性です。

一昨年の夏までは、上海の日本企業でお仕事をされていたそうです。3歳の男の子のお母様でもあり、餃子や肉まん、麻婆豆腐などお料理上手で家庭的な面も余さんの魅力です。

将来の夢やご家族のこと、米沢の保育園に通うお子様のことをキラキラ輝く目をして語ってくださいました。

(インタビュー: 黒田三佳編集委員)



(NPO法人)Y-MOTネットワーク誕生!

代表 渡邊 毅

かねてよりY-MOTネットワークの有志により進めておりましたNPO法人の申請が、5月28日に認可の運びとなりました。ここに御報告致します。

社員十三名でのスタートとなりましたが、広く社会貢献・地域活性化を目指し、更に活発な活動を進めてまいりますので、皆様の御支援を御願い致します。

基本の一つは、Y-MOTネットワークへの支援も挙げますが、NPO法人としての社会的な認知度の向上により、受託事業の幅も広がり、多方面からの支援・補助等の受諾も期待出来ますので、有効な連携策を考えてまいります。

改めて機会を作り、NPO法人の内容の御説明と、入会の御案内をさせていただきますので御期待下さい。

MOT事務局便り

MOT事務局より、大学の動きやMOT専攻に関わる情報をお知らせ致します。

- ・工学部オープンキャンパス2010が、8月6日(金)に開催されます(詳細はHPを御参照下さい)。
- ・H22年9月修了者、修士学位論文公聴会は、8月21日(土)午前中に開催されます。午後は、H21年10月入学者初年度経過報告会が開催されます。

(MOT事務局)

《編集後記》

今回、MOTコースから初のドクターが誕生致しました。その佐藤安太様から、本号に御寄稿を頂きました。ものづくりの人材育成に御活躍される御姿には、大いに心を動かされますし、我々も沢山の元気を頂きましょう! 益々の御活躍を御祈念致します。

Y-MOTネットワークの活動も5年目に入りましたが、地道に、着実に継続してまいりたいと思っております。皆様の御投稿や多様な事業提案・アイデア等を御待ち致します。

(編集委員一同)